５　アクションプラン

重点目標「自ら考え、表現し、互いに高め合う生徒の育成」

具体的な達成目標　　※数値は生徒の自己評価（肯定的評価）の割合

〇多面的・多角的な見方・考え方を身に付けた生徒
- 自分の考えを様々な方法で表現し、対話を通して深め合うことができる。　・・・・・８０％
- 学年にふさわしい時間の家庭学習習慣が身に付いている。　・・・・・８０％

〇よりよい集団づくりを目指す生徒
- 時と場に応じた挨拶や言葉遣いができる。　・・・・・９５％
- 校舎や地域への感謝の気持ちを込めて清掃する。　・・・・・９５％
- 人には思いやりをもって接し、よい関係を築くことを心掛けている。　・・・・・９５％

前年度

昨年度の重点目標は一昨年度より継続して「持続可能社会の担い手であることを自覚する生徒の育成」とし、生徒の育成に取り組んだ。具体的な達成目標を「多面的・多角的な見方・考え方を身に付けた生徒」、「よりよい集団づくりを目指す生徒」とし、授業や諸活動の中で思考力・判断力・表現力を育てること、家庭学習の習慣づけから基礎学力の向上を図ること、ICTを効果的に活用し生徒の主体的な学びにつなげることに対し、大きな成果を上げることができた。「よりよい集団づくりを目指す生徒」については、挨拶、清掃、思いやりは本校の強みでもあり、昨年度は目標を達成することができている。今年度の重点目標は、誰もが意図を捉えやすいように「自ら考え、表現し、互いに高め合う生徒の育成」とし、生徒一人一人が意欲をもって学習に取り組めるように働きかけ、昨年度、目標値を下回った家庭学習習慣を定着させ基礎学力の向上を図る。また、引き続き本校の強みである挨拶、清掃、思いやりの項目について生徒の主体性をより高めていく。

行動Ⅰ

多面的・多角的な見方・考え方を身に付けた生徒

①授業において生徒が考えを発信し、練り上げ、改善するなど自己調整力を発揮できる展開部、終結部を工夫し、協働的な学びを育成する。

②各教科の特質を踏まえ、家庭学習の取組を工夫したり保護者と協力した取組を行ったりしながら、家庭学習習慣を定着させ、基礎学力の向上を図る。

③ＩＣＴを効果的に活用し、生徒の主体的な学びにつなげる。また学習専用端末を利用した家庭学習を工夫し、家庭学習への意欲を高める。

よりよい集団づくりを目指す生徒

①学校生活を通して、挨拶の意義や好ましい人間関係づくりについて考えさせ、自分から場に応じた明るい挨拶や言葉遣いができるようにする。

②校内だけでなく地域にも目を向けさせ、清掃の意義を理解して、主体的に清掃活動に取り組むことができるようにする。

③各教科や行事、生徒会活動において、人権教育を核に社会との関わりについて考え、温かい人間関係を築くことができるようにする。

中間評価

中間評価【学校評価（教員、保護者、生徒）、生徒の自己評価】（７月）
- 学校評価から該当する評価項目を選び評価する。
- 教師、生徒、保護者の評価結果を比較考察し、場合によって目標値の変更や具体的改善策等を検討する。

※「学校・学年だより」、「学校ホームページ」で結果の一部を公表する。（学校評議員会で意見を聴取する）

行動Ⅱ

- ①～③を継続する。
- 家庭学習の評価結果を保護者にたよりで知らせ、課題の共有化を図る。
- 「ノーメディア・チャレンジ・ウィーク」の継続

- ①～③を継続する。

年度末評価

年度末評価・・・教員、生徒、保護者対象（２月）
- 学校評価から該当する評価項目を選び、それぞれのアクションについて自己評価を実施する。
- 評価結果を学校・学年だより等で公表するとともに、学校評議員に報告し意見を求める。

※「学校・学年だより」、「学校ホームページ」で結果の一部を公表する。（学校評議員会で意見を聴取する）

次年度

- 年度末評価をもとに成果と課題を明確にする。
- 生徒の実態を踏まえ、次年度の目指す生徒像を共通理解し、重点目標・行動計画を作成する。